

分野	専門分野	担当者（職種）	中野知子（専任教員）	
授業科目	小児看護学概論	実務経験	有（医療機関に5年以上勤務）	
		単位数（時間数）	1単位（30時間）	
対象学年・学期	2学年・前期	DPとの関連	DP2	
授業の目的	子どもの正常な成長発達を学習し、小児看護の理念や変遷について理解し、小児看護の実践のために必要な基礎的知識を学習することを目的とする。			
授業の概要	子どもやその家族を取りまく社会や諸統計について知る。また、子どもの正常な成長発達を理解し成長を促す養護や看護に結び付けていくとともに各期に起こりやすい問題についても考える。			
授業計画（回・内容・授業形態）	第1回	1. 小児看護の特徴と理念 1) 小児看護の対象 2. 子どもと家族を取り巻く周囲の環境 3. 小児看護における倫理	講義	
	第2回	4. 子どもの成長と発達 1) 成長と発達 2) 身体発育の評価 3) 乳児の身体的成長・機能的発達・精神運動機能の発達および養育	講義 DVD	
	第3回	4. 子どもの成長と発達 3) 乳児の身体的成長・機能的発達・精神運動機能の発達及び養育	講義	
	第4回	4. 子どもの成長と発達 4) 幼児期の機能的発達・精神運動機能の発達および養育	講義 DVD	
	第5回	4. 子どもの成長と発達 4) 幼児期の身体的成長・機能的発達	講義	
	第6回	4. 子どもの成長と発達 5) 学童期の精神運動機能の発達および養育	講義 DVD	
	第7回	4. 子どもの成長と発達 5) 学童期の身体的成長・機能的発達	講義	
	第8回	4. 子どもの成長と発達 6) 思春期の精神運動機能の発達および養育	講義	
	第9回	4. 子どもの成長と発達 6) 思春期の身体的成長	講義	
	第10回 第11回	5. 子どもの身体面のアセスメント 1) バイタルサインの測定 *事前課題 子どものバイタルサインの測定方法について 様式あり 2) 乳児期の身体的成長(身体計測の実際) *事前課題 乳幼児の身体計測について 様式あり	講義 演習	
	第12回 第13回	6. 災害時の子どもと家族の看護	講義 GW	
	第14回	7. 対象理解のための子どもとの関わり あけぼの園でのボランティアを通して あけぼの園の概要について(担当者からのオリエンテーション) ～夏季休暇中野ボランティア体験～	講義	
	第15回	まとめ・筆記試験	GW	
	使用テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学①小児看護学概論 小児臨床看護総論 医学書院		

<p>参考図書</p>	<p>国民衛生の動向 発達がわかれば 子どもが見える ぎょうせい 0歳～6歳子どもの発達と保育の本 第2版 学研 0歳～6歳子どもの社会性の発達と保育の本 学研 新訂版 写真でわかる小児看護技術 アドバンス インターメディカ</p>
<p>評価方法</p>	<p>筆記試験 80% 課題の取り組み 10% 授業態度 10% ※授業科目の授業時間数 2/3 以上の出席にて受験資格あり。但し、出席時間数が基準に達しない場合は、補習等により修了していること。60 点以上を合格とする。</p>
<p>履修上の注意</p>	<p>毎回講義範囲のテキストを読んで予習をして臨み、講義終了後にはノートにまとめて復習しておく 夏季休暇中にあけぼの園で小児を対象としたボランティア体験を行うため体調管理、感染症対策に気を付けて臨む</p>

分野	専門分野	担当者（職種）	長谷幸治・三浦博充・楠本岳久 本田遥香・加藤美幸・松木拓記 （医師）	
授業科目	小児看護援助論Ⅰ （子どもの健康障害）	実務経験	有	
		単位数（時間数）	1単位（15時間）	
対象学年・学期	2学年・後期	DPとの関連	DP2	
授業の目的	小児看護を実践するために、成長・発達の途上にある小児の疾患を学習し、病態生理から患児の状態を把握する。そのために疾患については代表的な疾患を系統的に学習する。			
授業の概要	小児の特性、小児科領域の疾患の概要を、将来看護に活かせるよう、各講義を通じて学び、理解する。			
授業計画（回・内容・授業形態）	第1回	発達・先天異常、免疫、アレルギー	【事前学習】小児の成長発達について、免疫の仕組みについて学習しておく	講義
	第2回	予防接種 感染症（細菌感染症・ウイルス感染症）	【事前学習】感染症とは何か、感染症の原因について復習しておく	講義
	第3回	新生児	【事前学習】新生児の生態について学習しておく	講義
	第4回	呼吸器、循環器	【事前学習】小児の呼吸機能、循環動態について復習しておく	講義
	第5回	血液、悪性新生物、代謝・内分泌	【事前学習】血液の成分や役割について復習しておく	講義
	第6回	消化器、腎・泌尿器	【事前学習】消化器の構造機能、腎臓の構造と機能について復習しておく	講義
	第7回	神経、皮膚・眼・耳鼻咽喉、精神、事故、虐待	【事前学習】脳の発達、中枢・末梢神経について、各感覚器官について復習しておく	講義
	第8回 (45分)	筆記試験		
	国家試験、卒業後の業務に役立つよう、上記を教科書、講義、講義内容プリントなどを用いて学習する。			
使用テキスト	系統看護学講座 小児看護② 小児臨床看護各論 医学書院			
参考図書	ナースが知っておきたい小児科でよくみる症状・疾患ハンドブック： こどもの病気の地図帳			
評価方法	筆記試験 100% ※授業科目の授業時間数 2/3 以上の出席にて受験資格あり。但し、出席時間数が基準に達しない場合は、補習等により修了していること。60 点以上を合格とする。			
履修上の注意	毎回事前学習としてテキストの範囲を読んでおくこと。			

分野	専門分野	担当者（職種）	中野知子（専任教員） 久川茜（看護師） 奥畑まどか（看護師）	
授業科目	小児看護援助論Ⅱ （健康障害をもつ子どもの看護）	実務経験	有（医療機関に5年以上勤務）	
		単位数（時間数）	1単位（30時間）	
対象学年・学期	2学年・後期	DPとの関連	DP2	
授業の目的	子どもの健康障害の特徴を理解し、子ども及び家族に応じた看護を展開する能力を養う。			
授業の概要	小児看護の特徴をふまえ健康障害が小児・家族に与える影響について考えると共に発達段階・病期に応じた看護が実践できるための知識を学ぶ。			
授業計画（回・内容・授業形態）	1回	1. 病気・障害を持つ子どもと家族の看護 2. 子どもの状況（環境）に特徴づけられる看護	【事前学習】範囲のテキストを読み分からない言葉を調べておく	講義 ：中野
	2回	3. 子どもにおける疾病の経過と看護 1) 慢性期にある子供と家族の看護(1型糖尿病) 2) 終末期にある子供と家族の看護（小児がん）	【事前学習】終末期にある子どもに関する文献や新聞など事前に読み、自己の考えをもち臨む	講義 ：久川
	3回	3) 急性期にある子どもと家族の看護(ネフローゼ症候群) 4) 周手術期にある子供と家族の看護(食道閉鎖症)	【事前学習】ディストラクションとは何か調べ、子どもにとってのプレパレーションの意味について考える	講義 ：久川
	4回	4. 子どものアセスメント 身体的アセスメント	【事前学習】範囲のテキストを読み、子どもの身体的アセスについてまとめておく	講義 ：中野
	5回	5. 症状を示す子どもの看護 不機嫌・啼泣・痛み（川崎病 外傷）	【事前学習】範囲のテキストを読み分からない言葉を調べておく	講義 ：久川
	6回	ショック・意識障害・痙攣・熱（痙攣）	【事前学習】範囲のテキストを読み分からない言葉を調べておく	講義 ：久川
	7回	嘔吐・下痢・便秘・脱水・浮腫（感染性胃腸炎他）	【事前学習】範囲のテキストを読み分からない言葉を調べておく	講義 ：久川
	8回 9回	呼吸困難・チアノーゼ(呼吸器疾患)のある子どもや薬物療法を受ける子どもの看護を理解するための基礎知識 酸素療法・気道内加湿・酸素ボンベの取り扱い・輸液ポンプ・シリンジポンプの使い方	【事前学習】酸素療法・気道内加湿・輸液ポンプ・シリンジポンプについての学習	講義 演習 ：中野

10回	呼吸困難・チアノーゼ 持続点滴静脈内注射をしている小児への 看護 (輸液ポンプによる持続点滴注射をして いる気管支喘息の患児、酸素療法、気道 内加湿実施中)		講義 : 久川 実習室
11回	6. 検査・治療を受ける子どもの看護 1) 薬物療法を受ける子どもの看護 ・経口与薬・注射・点滴静脈内注射	【事前学習】薬物動態について は診療の補助技術で学習した 内容を振り返り学習しておく	講義 : 久川
12回	2) 危険回避のための抑制・採血・検尿		講義 : 久川
13回	3) 腰椎穿刺	【事前学習】腰椎穿刺について 事前に学習し、持参する	講義 演習 : 久川
14回	7. 新生児の看護 ・フィジカルアセスメント ・ダウン症候群の子どもの看護 ・低出生体重児の看護 ・新生児仮死がみとめられる子どもの看護 ・高ビリルビン血症の新生児の看護 ・ファロー四徴症の子どもの看護	【事前学習】 範囲の疾患について学習して 臨む	講義 : 奥畑
15回	まとめ・筆記試験		中野
使用テキスト	医学書院 系統看護学講座 小児看護① 小児看護学概論 小児看護総論 医学書院 系統看護学講座 小児看護② 小児臨床看護各論		
参考図書			
評価方法	筆記試験 100% 病棟看護師 (60点) NICU 看護師 (10点) 専任教員 (30点) ※授業科目の授業時間数 2/3 以上の出席にて受験資格あり。但し、出席時間数が基準に達しない場合は、補習等により修了していること。60点以上を合格とする。		
履修上の注意	毎回事前学主としてテキストの範囲を読んでおくこと。演習では事前に学習して臨み、お互い学生同士で技術を確認しあうこと		

分野	専門分野	担当者（職種）	中野知子（専任教員）
授業科目	小児看護援助論演習	実務経験	有（医療機関に5年以上勤務）
		単位数（時間数）	1単位（30時間）
対象学年・学期	2学年・前期～後期	DPとの関連	DP2
授業の目的	既習学習を想起し、活用しながら一般的な子供の成長発達を理解し、疾病や障害を持つ子供への看護に綱げることを目的とする。		
授業の概要	小児看護学概論での学習を踏まえて、実際に保育園で子どもと関わることを通して幼児期にある対象への保育を体験し、理解へとつなげる。また、健康な幼児と関わることにより、健康障害時にはどのように援助していけばよいか考える。		
授業計画 (回・内容・授業形態)	第1回	1. 幼児期にある子どもの特徴の振り返り 幼児期にある対象の特徴を踏まえた関りを考える *課題（夏期休暇中） 1) 幼児期にある対象の身体的発達・精神運動機能の発達を考慮したおもちゃ(遊び)を考えて作成する(評価対象) 2) 発達段階別に身体的・精神的・社会的特徴をまとめる(評価対象) 3) 子どもに多い事故と事故予防対策(評価対象)	講義 GW
	第2回	2. 年齢に応じた遊びの工夫と事故防止 対象年齢ごとにグループを作りその年齢の特徴に応じた遊びと事故予防	GW
	第3回		
	第4回	3. 発達段階に応じた子どもの遊びと子供に多い事故と安全管理	GW発表
	第5回		
	第6回	幼児期にある対象の体験学習 関わりにより、各年齢の身体的・精神的・精神運動機能の特徴を理解する *事前学習あり	保育園訪問による 体験学習
	第7回		
	第8回		
	第9回	関わりにより、各年齢の身体的・精神的・精神運動機能の特徴を理解する 終了後レポート（評価対象）	保育園訪問による 体験学習
	第10回		
	第11回		
	第12回	体験学習後の振り返り・意見交換 (体験学習のグループとは異なるグループ) 次回の講義の事例提供	GW
	第13回	事例に応じた援助の検討	個人学習
第14回			
第15回			
使用テキスト	医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学① 小児看護学概論 小児臨床看護総論		
参考図書			
評価方法	対象の特徴を踏まえて作成したおもちゃ(作成前の学習を含み30点) 体験学習前の事前学習(幼児期にある子どもの発達段階の学習)及び終了後のレポート(事前学習20点 終了後レポート20点) その他提示された学習に対する提出物 30点 ※授業科目の授業時間数2/3以上の出席にて受験資格あり。但し、出席時間数が基準に達しない場合は、補習等により修了していること。60点以上を合格とする。		
履修上の注意	・保育園での体験学習があるため、自己の健康管理は普段以上に気を付けて臨む ・実習としての位置づけではないが、発達段階を理解し病院での実習の基礎となることを十分認識し、目的意識を持つ		